

# 山田まちだより



## 1. 山田町復興計画 「復旧期」から「再生期」へ

東日本大震災から 3 年が経過し、瓦礫の撤去は完了、沿岸部の災害危険区域では町による土地の買収が進められ、高台部では移転のための造成工事が急ピッチで進められています。

『山田町復興計画』では、「復旧期」から「再生期」に移行した平成 26 年度からは、いよいよ本格的な復興が始まりました。早い地区では、平成 26 年夏に高台への住宅移転が完了し、全ての地区で平成 28 年度までに高台移転や宅地の嵩上げの完成を目指し、工事が進められています。

水産商工課が担当する漁港や漁港海岸の災害復旧事業については、調査や設計、用地買収など、被災地の住民からは見えにくいところで進められてきましたが、順次工事が発注され、これから復旧・復興を実感していただける時期を迎えます。

■ 計画期間と各段階の考え方



↑ 山田町復興計画「計画期間と各段階の考え方」

## 2. 織笠漁港の復旧状況

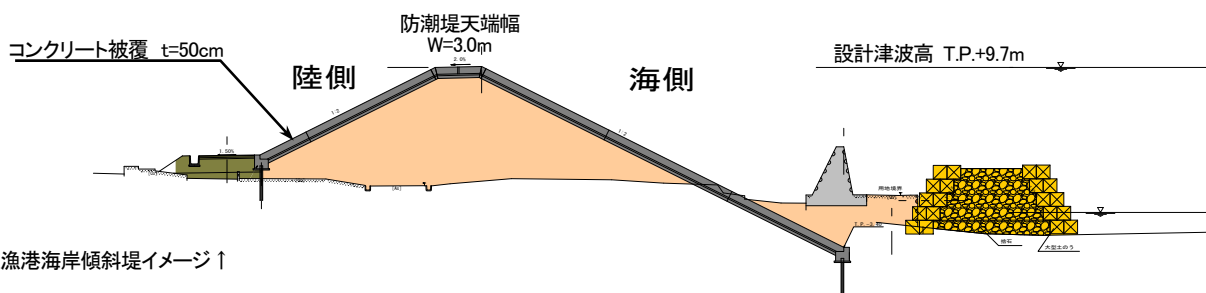
平成 23 年 10 月より本格的に始まった織笠漁港災害復旧工事(防波堤、物揚場等)ですが、平成 25 年度末までに約 65%の復旧が完了しました。織笠漁港では、東日本大震災による地盤変動により漁港施設が全体的に約 90cm 沈下したことから、満潮時には波が岸壁を越えて背後地まで浸水し、漁業活動に支障をきたしております。昨年度一部の区間が完成した物揚場は、今年度末には完成する見込みです。

嵩上げ工事が完了した物揚場→



## 3. 織笠漁港海岸災害復旧工事着手

度重なる入札不調により着手が遅れていた「織笠漁港海岸」災害復旧工事が平成 26 年 3 月に工事着手しました。復旧総延長 L=1.3km のうち 740m の防潮堤を建設する工事です。現在、起工測量を終え、いよいよ本格的な工事に着手しました。



織笠漁港海岸傾斜堤イメージ ↑

## 4. さくらまつり 2014 開催

4月20日に山田町の船越家族村にて『さくらまつり』が開催されました。当日朝の気温は氷点下。花冷えの寒さでしたが、気持ちの良い青空のもと、多くの人で賑わいました。

まつりの前半に行われた『桜で満たす集い』には、植樹ボランティアとして派遣職員3名が参加。急斜面で不安定な足場や、重たい資材や道具と格闘(?)しながら、全体で200本のソメイヨシノを植樹しました。山田町では800人あまりが震災で犠牲となったことから、800本の植樹を計画しています。津波から避難するときの目安となれば…との思いで、全て津波到達点より高い場所に植樹しています。



↑“チームオレンジ”のメンバーと(山田湾をバックに)

後半の『心に音楽を』では、山田町の子供たちによるダンスや、地元漁師バンドのライブ、そして「復興の歌姫」こと、隣町の大槌町出身で、昨年の日本レコード大賞新人賞などを受賞した、女子高生歌手 臼澤みさきさんによるミニコンサートが開催されました。寒風が吹く中、素晴らしい歌声を披露してくれたみさきちゃん。生歌に涙するお客さんも…。



↑地元漁師バンド『友 with フレンズ』

## 5. 派遣職員交流会

山田町には、総勢44名の職員が全国各地から派遣されています。自治体からの派遣職員の他、民間出身の任期付職員など多彩な顔ぶれです。そんな派遣職員が『三陸山田かき小屋』に集まり、町長、副町長とともに交流会を開催しました。山田町名物の蒸し焼きカキを堪能し、派遣職員一致団結して山田町の復興に邁進することを誓いました。



↑鉄板の上で蒸し焼きにされたカキ・ホタテ

## 6. 派遣職員の紹介

山田町には、昨年度に引き続き5名の静岡県職員が派遣され、うち3名が交通基盤部からの派遣です。

これから1年間、山田町の復旧、復興に向けて頑張りますので、よろしくお願いします。

平成26年度派遣職員(カッコ内は25年度の所属)

係長:石田安秀(袋井土木) / 技術主査:木原寛(下田土木)

主任技師:加藤晴久(沼津土木)



↑八幡平にて(右から加藤、石田、木原。女性は岩手県派遣職員です)

発行:岩手県山田町 水産商工課水産グループ  
(静岡県より派遣職員) 石田・木原・加藤  
TEL:0193-82-3111 FAX:0193-82-2302